

社会科学習指導案

平成20年9月18日(木) 5校時
沖縄市立越来小学校 5年2組
男子14名 女子14名 計28名
授業者：伊藝 かつら

1 単元名 「工業生産を支える人々」

2 単元目標

- (1) 工業がさかんな地域の様子を具体的に調べ、工業生産に携わる人々が生産を高める工夫・努力をしていることや、日本の工業の現状と課題をとらえることができる。
- (2) 工業生産に関する写真や地図、統計などの資料を収集・選択し、国民生活を支える工業生産の意味や、運輸・貿易のはたらきについて関連づけながら考えることができる。

3 単元設定

(1) 教材観

本単元では、日本の代表的な基幹産業である自動車を教材化している。沖縄で生活する上で、自動車は無くてはならないものであり、児童にとって一番身近な移動手段である。それを教材化することで、日本の工業生産を学習する足がかりとする。

家庭で使用されている車両を通して、いろいろな種類の車を比べる活動を行い、人々の願いに応える自動車づくりへの関心を高め、工場見学(バーチャル工場見学)の学習を通して、生産の様子や働く人の工夫・努力、部品工場との関連についてとらえていく。さらに、出荷される自動車のゆくえを追求するなかで、運輸や貿易のはたらきに気づかせるとともに、これからの自動車づくりの課題を捉えさせるという一貫した展開にしている。

また、前単元と同様に、具体的な事例について学習した後に、日本の工業の特色や工業生産のあり方について考える手法をとっている。

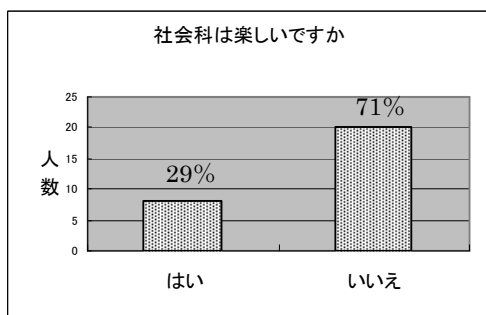
なお、工業生産と深く関わる公害については、下巻の第4単元で扱うことになるため、ここでは、環境に配慮した自動車づくりの工夫という扱いにとどめている。

(2) 児童観

沖縄では、日常生活になくてはならない乗り物である自動車。児童は、あまりにも身近な乗り物である自動車について、単なる移動の手段としての意識しか持たないであろう。自動車がどのようにして工場や販売店に届くのか、輸送するときにはどのような点に気を配っているのかを想像することは少ないと思われる。そこで、スカイメニューを活用してカラーの写真を大きなスクリーンで見たり、自らいろいろな操作ができるワークシートなどを使って興味を持たせ、意欲的に学習に取り組ませるようにしたい。

(3) 児童の実態(社会科アンケートから)

- ① あなたは社会科の学習が楽しいですか。



〈①ではいと答えた児童の好きな理由〉

- ・社会見学や体験活動がある。
- ・本物を使った授業がある。
- ・楽しい。
- ・おもしろい。
- ・どちらかというが好き。
- ・新聞作り，発表，調べ学習が好き。

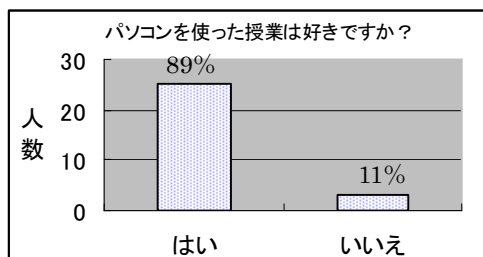
〈①でいいえと答えた児童の嫌いな理由〉

- ・難しい，意味がわからない。
- ・おもしろくない，興味がない。
- ・楽しくない。
- ・グループ学習が苦手。
- ・もともと嫌い。
- ・調べたり文字を書いたりするのが嫌い。
- ・資料を読み取るのが苦手。
- ・調べ学習が苦手。

約7割以上の児童が社会科の学習が楽しくないと答えており，授業中の発言からも嫌いという発言が多く聞かれる。その理由として，社会科特有の用語が難しい，資料の調べ方や読み取り方がわからない，ということが嫌いな原因として大きいと思われる。

一方，社会科が好きな児童においては，より具体的な回答が多かった。資料の読み取りや調べ方などの学習方法を知っている児童が社会科の学習が楽しいと答えている印象を受けた。

② パソコンを使った授業は好きですか？



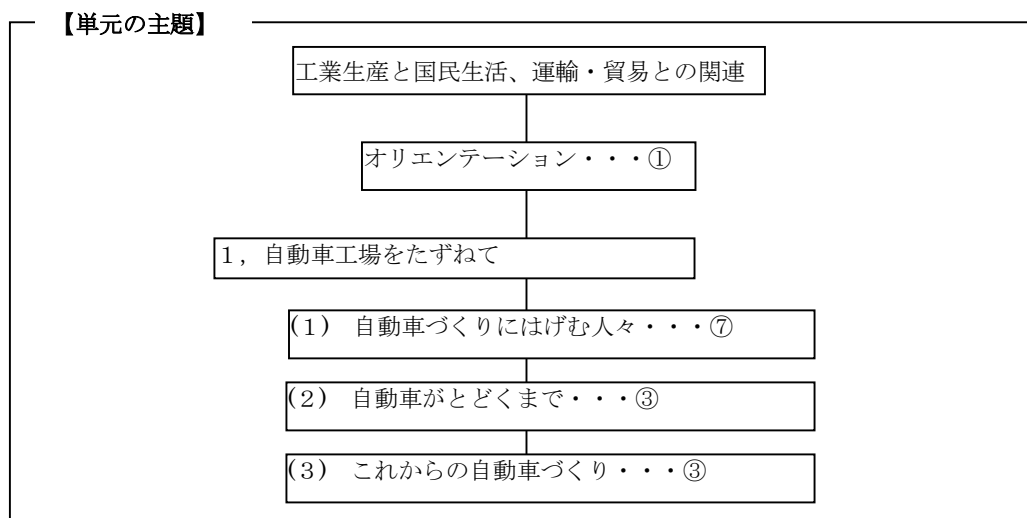
パソコンを使った授業は約89%の児童が「好きだ」と答えており，学習への意欲的な取り組みが見られる。

資料を用いることが多い社会科の授業において，コンピュータを使った学習は，簡単に写真やデータを提示することができるため活用しやすい。そのため，苦手意識の強い社会科の学習において，コンピュータを使った授業は，視覚的な効果で児童を引きつけ，たくさんの情報を共有することで興味・関心を喚起させ意欲的に学習に参加させることができるであろう。

(4) 指導観

導入においては，児童の自宅の車について想起させたり，インターネット学習を効果的に取り入れることで児童が実感をもってとらえるように工夫し，自動車について興味を持たせたい。展開においては，教材（具体物）と児童，児童と児童，児童と教師等，関わり方を重視した授業を展開する中で，工業生産や運輸の仕事に携わる人々の工夫や努力，願いについて具体的な事例をもとに考えさせ，工業生産と国民生活との関連についての的確にとらえられるようにする。まとめでは具体的な事例についての現状や課題を，日本の工業全体の現状や課題と関連づけながら，日本の国民生活を支える工業生産や運輸・貿易の意味について考えられるようにしていく。

4 単元の構成



5 指導計画（14時間）

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| ① オリエンテーション(1/14) | ⑧ 工場を支える工場(8/14) |
| ② 自動車作りの？発見(2/14) | ⑨ 船の中をさぐってみると(9/14) |
| ③ こんなに広いの！(3/14) | ⑩ 新車を無きずのままで(10/14)・・・本時 |
| ④ 自動車ができるまで(4/14) | ⑪ 遠くへ速く運ぶ(11/14) |
| ⑤ ロボットも大活やく(5/14) | ⑫ 自動車作りへの願い(12/14) |
| ⑥ 環境に優しい工場をめざして(6/14) | ⑬ 安全で、人にやさしく(13/14) |
| ⑦ 商品はどこから？(7/14) | ⑭ 車と自然の共生をめざして(14/14) |

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ①工場から販売店に自動車が届くまでの流れや輸送をする人たちの工夫や努力がわかる。
- ②考えたことや読み取ったことをわかりやすくまとめたり表現することができる。

(2) 授業仮説

導入の場において、プロジェクトを活用して大きな画面で写真を見せて興味を引きつけ、展開の場でスクリーンを使って児童にワークシートを配布して作業をさせることで、課題に興味を持って取り組むことができ、自動車の輸送についてよりよく理解することができるであろう。また、まとめの場において、児童がまとめたワークシートをスクリーンに映し出し本時の振り返りを行うことで、自分と友達の考えや表現方法の違いを知ることができ、さらに学習を深めることができるであろう。

(3) 本時の展開

過程	学習内容と活動	教師の支援	情報機器の活用	評価の観点・方法
つ か む 5 分	1. 前時のふり返り 船からおろされた自動車のゆくえをさぐろう！ 2. キャリアカーの写真を見せる。(前時の学習から、自動車を船に乗せて輸送すること想起させる。) こんな車見たことある？	・スクリーンの画像が見えやすいように最初はスクリーンの前に座らせる。 ・いろいろな意見が出るように質問する。	・スクリーンに資料を映す。	●興味関心をもって資料を見ることができたか。 ●学習課題を把握することができたか。
ひ ろ が る 1 0 分	3. 自動車は、船からおろされた後、どのようにして私たちの元に届くのだろう。(ワークシート1に貼り付けてある資料を自由に並べ替える。) 船で輸送された自動車はどこへいく？	・児童のパソコンにワークシートを送信する。 ・他人が見てわかりやすいように図をまとめることを促す。 (ワークシート1) ・作業がうまくできていない児童に支援をする。	・スカイメニュー(児童機へ送信)	●資料に興味関心をもって、ワークシートを作成することができたか。 ●マウスの操作がうまくできたか。
ふ か め る 2 0 分	4. 文章から要点を読み取る。(ワークシート2) 新車を買った人・キャリアカーで運んでいる人の気持ちになって考えよう。 5. それぞれの人の気持ちを考えよう。(ワークシート3に両者の気持ちを書き込ませる)	・自動車を運ぶ人の気持ちや気を付けていること、嬉しいことをなど要点を読み取る。 (ワークシート2) ・要点をふまえて長くならないように自分の言葉で書き込ませる。 (ワークシート3)	・児童機に教師機の画面を映す。	●うまく要点を捉えることができたか。 ●両者の気持ちになって言葉を考えることができたか。
ま と め る 1 0 分	6. 何人かの児童のワークシートを取り上げる。 7. 次時予告	・他の児童がまとめたワークシートをみんなで見て、学習内容の確認をする。 ・次時の学習予告をすることで児童の学習に対する意欲を喚起させる	・スクリーンに児童の作品と資料を映す。	●友達のまとめたワークシートに興味を持ってみることはできたか。 ●自動車が販売店に届くまでを理解できたか。

〈ワークシート3〉

7 授業の反省

- パソコンやスクリーンを使うことで、児童が意欲的に学習に取り組むことができた。
- スクリーンには、集めた写真をパワーポイントで提示し話しを交えながら授業を展開したため集中して話を聞くことができた。
- スカイメニューの教材配布機能を使うことで、各児童にワークシート送信し、各々が書き込むことができた。
- 各児童がコメントを書き込んだワークシートを回収し、スクリーンに映し出すことで、本時の授業の確認や友達の面白い感想などをみんなで確認することができた。
- 児童が操作しやすいようにワークシートの工夫がなされていなかった。
- 授業の最後に、児童の手元に残るような資料などもあったほうが良かった。
- 事前に、児童のパソコン活用能力に関するデータを取っていなかったため、想定外の操作などがあり、対応に苦慮した。
- OHCなどのパソコン周辺機器の活用があれば、もっと良い形で授業を進めることができた。